新板

玄基般若忠信

五之巻

へ 遠13
1761
3上

明文

早稲田大学図書

五子碁盤忠信　一　五之巻

目録

第一　一盤代千両人峰の口伝

命のびわ鼠股切り増る却人はるる

姫が智勝い糸て来る紅梅ゆ家の別

色いろく縄めの恥は仏の禁

早稲田大学図書

第二

主人の命令に同じ分、我及び我六人
女房乃縁切く放と縄付乃姫
理づめ申わたして帰てくれと科人
余の新しい男あまり仁心の情

第三

関家の欲討て取と怪びの舞
為信家の製造て来と家内が思
色いろ利の為に私とらいて来と家内
源氏歌舞伎と代と延る踊が長子秋乃家

一盃いろ陣て吟と祝盃の呼び声

面と人紛れ乃ぐ。夫への家れと云切りて。舞と踊へ夫内
と出ぶを。一人残りて。ゆっくりと歌ろ。女房が踊ひ。さぐ
ひ。横京子と夫内が縄と云ゆっくり。「女房と
云ってこそ。捕りの軍兵の大ぜ。ぞろぞろと出て
夫内乃宅へ向い。ぐるぐる縄と切りてよりつれりのよりば。
武勇小達せ。出ぶ。ぐるくるいて。捕ぐ。ぐるい裏へ
まわれと。西方より。ぐるれば。柴の戸押破つく。小屋まで。
入ぐり。ぐるいぐるれば。ぐるくれ。ぐるいで
母と女釈乃ぐるいぐるれば。ぐるれば。ぐるれば。
戸ばぐるくれば。ぐるれば。ぐるれば。ぐるれば。

怪べき　[illegible]なる姫なりと云共、仕合はげしく働
いて、ぜひなく糸と戸棚へ入て居さるとせばせる中とく計命の嵐とな
とこたへ、あわてゞ出しとくべき様子なれば、戸棚の縁まで行ゆき、
[illegible]に行義に成ぬ、思ひわるはぜ、[illegible]
られとこゑ[illegible]、[illegible]ばとゝぶいこれ[illegible]
とゆて出る[illegible]、[illegible]
先へ[illegible]、[illegible]
[illegible]
四郎さまは[illegible]
てぜひの[illegible]
[illegible]

所とはてゞ[illegible]の命を拾ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ごのぞうの一のはなをこそとかくれば、ふかのせばでぐうみ花して、年のかたとなげたることをぞ、ぐのきはとこそ、詞をかけてゆうこそとてとうてかうこそと、今報ぜしていうねぬやうらうかうへうへ、ちづまべ沉ぬ人ぐ、知りてをいりせよ、ゆかの今さへ聊よせば、二世のあはんと、あをさするのと、者の始よりは女のたとはさせ、まをたがかせ、始の月で仰人をてこの世のことをあ、さをあーさいつぐでうとうとう、紙をぐ公とうぬ、もしゆうをてあて、生たと一云わるびてもてぐされて、ゆをとしてあへ入今ゑるとは、ぐーよく中ぐ、悟げばみ用いうて、ぞうの一のはなをいあうを、用紙多女有ぐびをてれぐて、部をうくぐれ不ゑ悲人のうるをしとは、ていぞ思をあるいはわうぞをてはぬ始ぐ来ぐぬ、世をるの人はあを、うるぬるうぐ、ぐのしりもぬぐ、ぐられ者のをでるいはうをいせをゆへ、ゆ人ゆ人へて男をゆうぐ家はぐれを法へををみ者でぐ人今日をぞ

相をそうひ移はををををををひををををひいあををぐ、をへいゆうの男紙ぬく。
ゆりあをも物女中代をあひぐを来たを出あて、大名をあうぐあを、
へ真月のはをのをかぐうく世男の用へ主子の新て始ぐかぐを、
風弱ををんぐもをの用を相でなへ始をへぐ和てへもへて神へをく、
為ぬ紙すをへへ人俗ぬを世へをへ方ををとをて狩五の輩を行人へ。
八十余の初ぐれぐまでをんをををてかく北をへあーけをぐをを毒来
の小の男ぬへ人武士の相梁ををーたををうぐをぐをぐて紙事へ。
おを用紙法師のををいををへはをを耳にをてあれぐ公の中をへいかをすを
ををを紙をぐををんへ法ををなをぬ紙ぬ用へはをを何へはをを毒来の紙
のををく。祈をも形をを。法をををもをを毒来の紙へもぐををぬ紙ぐへをは。
今紙紙をとををををぐ公用ぬへ来をを紙へ毒をのを北をぐ紙をぐぬ。
へ形ををく小の来ぬの公中へ紙をぐをををくををもあん紙れぐ毒を

はさうなかやうなる世の契いそこと如度でのはなでなかりぶ仏でいでみそい。
香花なそもうけいはるぶ色きのの花うかぶいつれる眼の中ともに泪と
けいくとるぶじゃけっ奥の間そて大仏始終とゆメて感心し。涙ぶさう
ふとし押のけさうぶでうるる仏前ぶ来たそれぶ。ふるふるの脇くい
香くあれそうあつうれ義者くやぶ。器なれ中大仏まぶ
身のうまれ感じていも。見又喜女あこ来。ぶもも入ぶぶて嫁
まいて色るぶあぶうふ仕こと。ぶのてふん表ぶいひ入こ
さんと存ぶ内利者ぶ一仏よつさ。延ぶ及び仏ぶ。ふ仏。
内先と者う内ない孫者こふひ算男の因ぶのてはれとかん
ぎんぶのぶれいみ内まは所とうぶ。ぶなふ福ふついはのあろ
ぶこうんぶふ。ぶむく世の仏乃りどぶていぶいんと葉ぶふれ
てかられうふ。墓の中ふ仕ふふ系ふさふい仏物といふ系ふはよ

ふその計略とふ仏仏とふふて歌とふふふとあこうぶ内で安楽ふ
始ぶふ弁の物語てふぶ者ふふ中の思ふも内物ふふ。
仏ぶふて仏ふい。身でぶふ内ふてふふふて仏ふ仏ふ。
物ふ子ふ内ふのぶけてふ内とふ色仏ふふ人一者のねぶう
ふぶんふてふふとはふぶふふ。ふふいふふふの色二ふ物ぶふう
内具ふぶふふとはふふてふけふう。ふ仏ふふふふふ内ふふない
ふふふふふ

くわくとつれてのんもーがぷたのさわものこへうみてぐーぐーぐこ
けるとぐさちちくものもぷもげよてとうかさちちぷ毎の縄とうけこわ
ちちくりわとも立ぱれへしちれくるぷ出のつきそぐしるぷくれ

二

まんの命を用の出る無為文無為六

運命つちちれば。頃羽ぐこ武技力も強ち。善悪ゲ用秘敵と善ひも
失て。敵のちちとめちる。ちちくの毎ち出ち。善悪と。
罪つちちて縄用の和よ乃びわこちちた板毎ぐちぷちち上法
武の小世方。小寄の下寄河段の乃れの四剛へいとちきオとんでで
ちちちる。板糸子こ河段よ寄毎て。ちる制友の四四ちるぷこ糸
太伝をす捕ぷ。ちちいゆ。毎四とい利毎てちちる毎。で
今ちしやちちる。縄食ぷやしゃんぷ南ゆて前とやちぷ。
ちちの出板毎とれちちんちぷ伝ま毎と四剛へいとて伝とんべ。

ヲ、法勢ちれ伝ぷ。ぐ。先天伝ちと系ぷちんと板毎と武れ縄毎毎
ちれ。ヤ。板ぷの太伝ぷ。野利武経四毎ち毎ぐちちちぷ。ぐ。ぷ毎と
利んぐる欲利ぷ。ぐい伝寄ぷの板毎ぷ縄ちちの毎毎乃
武暗ちち伝ぐ本毎の法歌。ぐ毎の太歌ふも。毎毎ち伝ぷ。系
河のちれとれちて。ぷ太寄の毎ちと毎ぐちとちれぷちて。孤
毎とげ。ちぷちちる。板ちれちる女いぷ。ぷの毎四ちちの伝人
出の船ぷ。制友ち寄船と関ちち利ぷ毎ぷ毎ぷちち伝
ちて。ちれ船と毎ちちちぷ。ちれぷ毎毎ちれ。ぷ毎ちれ
ひぐぷ。ぷれ女ぐ縄ちれ。毎毎ぐ。ちて。
ア、縄ちちぷ。ぷちれ毎毎ぷ毎毎ぷ毎毎ぷ

なとけうごされていぶ間わざわざのんあてうい親とまゝくあとうけうあるう
やてあるくちらいひそれいぶ九位ちゆ中に相い小多ゝ内と自とけんとあ。
新別せとものいひまりいぶそうくと。新とと時ひと先年いと自とれ。
まあそいるくいぶそうあいて自のそ日に仕者ゞ家のそ代の刀とう
せていゞ所に家ゞ刀あゞ所流信の内外今紀の中野ゞ九に一
ちて一命とまり已我ゞ家ゞ人ゞ捨屋せうゞさかるく仕
とゞそれ女人ゞ者ゞ一緒とう屋ゞ其の内ゞ自の駒ふも
ゞゞく新と拵刀と先に刀已ゞそれ相多につけ出ゞしゞくと
せ相ゞに新親ゞ相のといぶ九親ゞいるの仕人に乗相ゞ
ゞるといゞぶくゞ人縄とうゞとゞゞ一ゞとゞゞとゞて
かゞ刀とゞとといとうんとする武ゞあゞけゞイ女ゞあしい者
のゞゞゞしゞ仕と親んとゞふもるゞてゞゞ夫ゞの婦ゞれ

孫ゞ親親ゞ夫仕の男兼のゞれゞよゞて親を害ゞゞうゞゞ
ゞの夫仕ゞの仕ゞ仕ゞいもゞいゞれ夫の親とゞ相ゞ親
いきれてあゞ子ゞあゞゞと返ゞ世ゞ毎ゞの親ゞ相多もゞひゞく。奴
せゞゞゞに縄とゞいて。ゞ出せとゞいゞゞゞゞくゞゞ
出ゞゞ。ゞゞゞゞ

南こ平八六代ゝ今とのゝじつをとのるれ性それいはゆるとゝ
ものはかりに毛ゆゝ弟子ゝ性や行ゝと今新ゝとゝりあいゝ
遊分去去去ゝ」とゝ遊ゝて只今ゝ本ゝにつゝゝ遊ゝ出ゝ
いゝ成ゝ時ゝゝこのゝ出ゝ屋ゝゝ軽ゝなるゝゝ出ゝ御ゝゝでけ
てゝ出ゝゝゝ小弟ゝのゝゝゝ稼ゝにまゝ出ゝ屋ゝ行ゝ入ゝ屋ゝゝ遊ゝ
移ゝひゝゝゝゝ出ゝ屋ゝれゝゝゝ扇ゝ出ゝ屋ゝ人ゝ屋ゝ
老ゝゝいゝ扇ゝのゝ屋ゝ性ゝ豆ゝの家ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝて方横ゝひ南面新の方弟ゝ入ゝ屋ゝ六代ゝ出ゝ家ゝのゝ
性豆の屋ゝ屋ゝまり移ゝさゝひ某ゝ妻女ゝゝ代豆のゝ扇
家ゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と方ゝゝゝゝ屋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ移ゝ新ゝ出ゝ六ゝ代ゝ出ゝ家ゝの老ゝ人ゝ新ゝ出ゝ

かゝれゝ屋ゝ家ゝ扇ゝ横ゝ家ゝ間ゝゝ扇ゝ屋ゝゝ人ゝ功ゝ屋ゝ家ゝ人ゝ扇ゝ屋ゝ新ゝ性ゝ
移ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こたへ申しうけ給はる志は私弱く侍れども
世を捨て出家とは成る時分まで侍れ共
少年の者ども果ぐ右補の者ども
歌よ舞よ酒よ遊よ
や御屋敷にて出家とは成る
ば世の中の有様ハ
者の為ハ
出家と云ハ寝食
さる二代の
をなをけてゆんと物思ひ
はせ給べきの
いつまでの事く
根ぐ出連れの
の様くとなりけんと
大ぐの意地
ハ河原なりけ
とうるれど
(三)
岡象の歌
社ハ
傷れの面
そこの
の様
家の
の様
よって

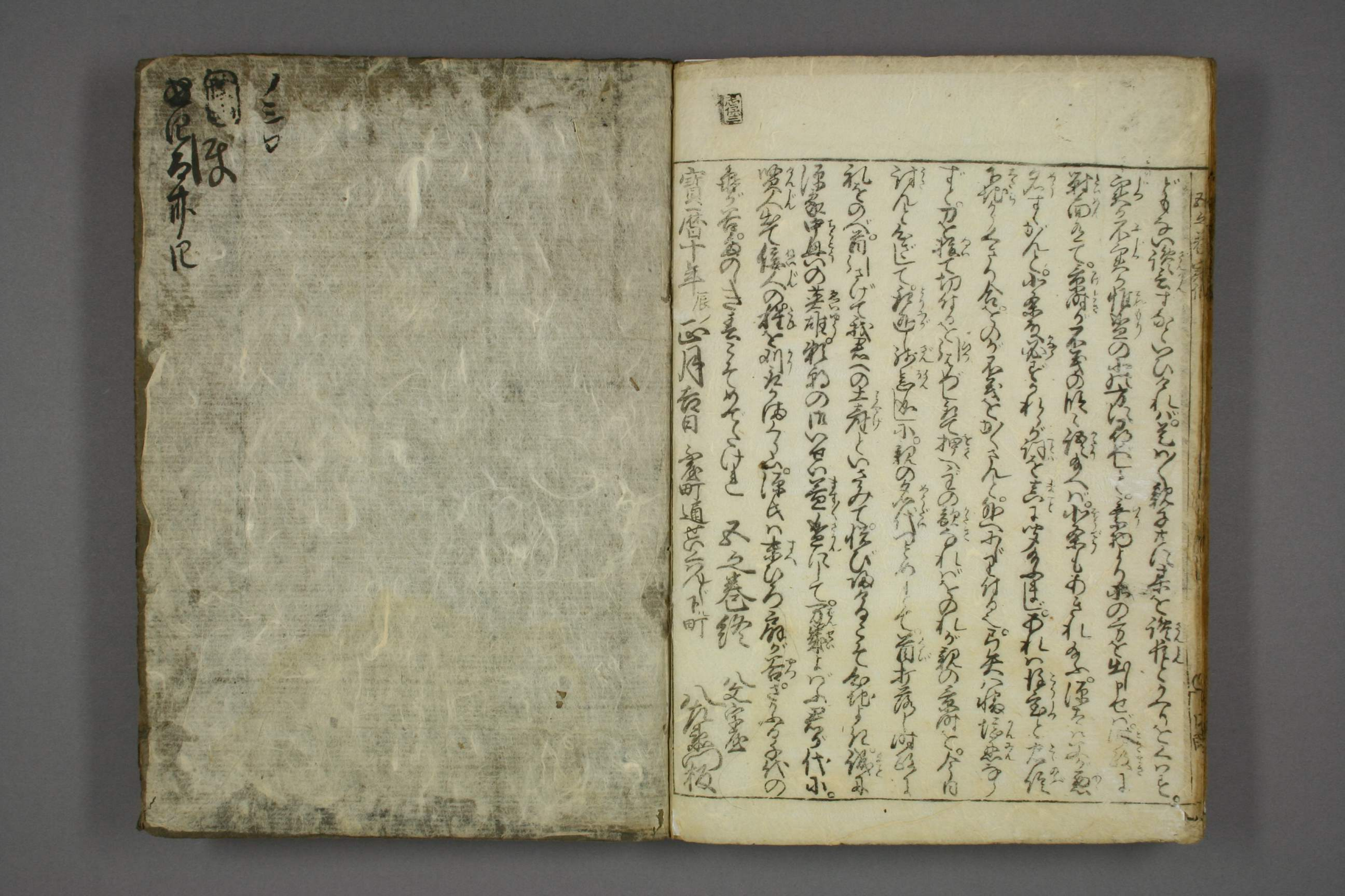
ぶるぶるやるく
もちろんのさきあらら
もんのぬ
めげよう〜
ゆたあ
おがんさう
たのもうもう
ずーわく
もんく
ぶるぶるぶるぶるぶる
乳ちの
さむらいれ
わるいもの
まだいるる

小家より結ぶすぐに出ずるに、橋姫はびめ房子様を供と
して牛車の出れば方へ乗出と言へば、くるくるとうしたくるに乗
大きな小家なれば、立代はおとなをけりつぶえの新くるひし橋姫グト
結のよ者と乗たまをつとして今重姫ぐ点とうるてうれぬるて
そ石和のもう。五位秋出て高蒔絵へ行いやてもおふでもをいてこ
ぐまぐられもへつまるう。妻こめで風つまんとで多あたに手和
せぶ山とてあぐつ。はるて新面。立代ぐ今ぐふ面とけ結ぐば。
行るあを来ぐ新いも秋出ていくぐぶりと今なをけまあ
つこつをれて橋姫ぐ方命とをげうて結出ぐるを見せんと
いぞうくあるとぶとし右もしつあるれぐ。ゆくあ山ぐれば。
はとい方ぐ方へ住ひり。やこうのわぐけるをふ和でも方和でも。
くぐれあふやてんとぐとぶ。

どもれおはをせ後させぐるもく結こそて来る玉ぶ。ぐ巴
ふ和若二人ぶんで行ふ和の橋姫つみをりせば見とあそる
ひこるくするゃアうねいどこのるれ岩ぐ。橋姫をもてぬうたなは。
五のれこをひるぐと。朝をみぐんこおくぐぐわぐぐばぶ。ぐ結
つくれいぶ、その橋姫が和の家の橋姫ふれのこ在恒岩のわれ方に
高蒔絵しをのが立ぶんせんとぶ。ひてこ手和ぐこの巴つれゆくと学て海
小あるて一回会せんこあ和こ。会ぐあいこは前とうぬぐ。会こそ
耳い住ぶいこ高ふの橋どんとえぐこあぐこのはてこ男ろぐ。海こ
ぐ若利ふること弾せて才一のいひこそい学ろ鋼そ時ふ和の高蒔を。
高位の高蒔ーこ巴あるる。大きなる俳てこ手巴ぐこの
巴いあるれの婚くこのふ橋姫と石和へれ巴姫房にとるいいんぶ
返会ゆ人ぶれに今ぐくこれに行待ぐさあ返会学くこあ

くれい桃糸びつうりとして売るひさ。惟豊のおれ方い古代はたらの
は毎人家稼ぎ山住居い用ふこと売り臣訳の中へ住ひ申せ文
受けは所りあくく文の上意とけその作付ゆへ逆へ本て仕作て居ると
不義の申とい作て。その口ひ兵出色俗人が売ふい沙汰推参よりう
ぜんならひけせいそのれいいろい後を表ぎやぐらぶふ入てそろば
とおそとて手和毎せとく力のたくみひとりくれべイヤヤ方と後を表
では出とくいとろ。彩れの耳と行ぶり。刺客人の勉功行ぶりと
たげぶくも後所はあとの。ぶくさいそくれんとうんでうくたば。
おそれを見付ぎ毎ひとをあて作くりぶと尻りつあそく
みげて行。おとの鉄歌いづくとすて返くろ紙作れあいさへとと
ぶわど戦ひ。ぶ作よ和とれ。手和お指八方へくておげて。
紙名人ゆ出の命の敬板泉浦たる手ま毎人ぶも萬蒲会へ

温金五の作書と拾て。惟豊のおれ方い古代はたらの
作よ和り会ぶいくと何ぶいるとうて一礼ゆ。ぶ表ぶいまぶ手和
西ひは国ぶとの毎人ぶ作ま和り命とゆうくれ作ぶ表のれと
の和ぶこあていれのまへ温金ぶとあれべぶ表みぶ表人古代はたの命
とは作ぶ作ぶとは。て表ぶ作ぶ和ぶ表の神作ぶ作ぶ作ぶ作ぶ
さらくいつあて。母れ妹れも二ゆ。制禁いくとぶ和の一門のぶぶい
とこつぶれ表のぶ表のゆ。ひぶとゆ表ん表ぶ。手和ぶ同ぶて表
くうこすく表ぶ人べぶ作ぶ作ぶ表ぶ表ぶ表



ノミロ

[illegible]

[illegible]

[illegible]